



平成25年に行われた『建築士による家庭科住教育出張講座』について、3名より報告します。

北海道旭川凌雲高等学校報告

旭川支部 川田 朱

平成25年9月2日、北海道旭川凌雲高等学校にて道の委託事業で、高校生を対象にした「住」を考える講座が開催され、本部から3名、旭川支部から8名がサポーターとして参加しました。



初めての一人暮らしをテーマに講義と実習。実習では自分らしい間取りをプランニングしてもらいます。今どきの高校生ってどんな感じなのかなあと、こちらの方が緊張していましたが、先生の話や講師の話真剣に聞いている姿を見ると、なんだかうれしくて、逆に緊張をほぐされていました。高校3年生になると近い将来の一人暮らしを真剣に考えていて驚きました。又、個性もそれぞれにうまく活かしたプランニングには、こんな生活スタイルもあるんだなあ……と、勉強させてもらいました。自分らしく生活できることで生きている事に自信をもってもらえたら嬉しいですね。機会があれば、また参加したい事業です。

渡島・檜山地区家庭科部会 研究協議会報告

函館支部 岩崎 美乃

平成25年10月25日13時より函館商業高等学校で、渡島・檜山地区高等学校家庭科部会研究協議会の、家庭科住教育出張講座が開催されました。今回は直接生徒ではなく、教える側の家庭科の先生を対象にしています。函館管内の12の学校から14名の参加です。

生徒が体験する前に先生自らが、どんなことをするのか体験したいという要望からの開催です。

女性委員の工藤さん、早川さん、吉田さんが講師として来函され、函館支部からも原さん、藤原さん、私、事務局の小野寺さんがサポートとして参加しました。

最初に工藤さんがパワーポイントを使ってワークのポイントの説明をし、マンション選びから始まりました。自然環境、眺望、買い物や銀行などの生活を優先するのか、または地震などの自然災害を考慮するのか、一人一人の価値観が判断の基準になります。それから、部屋の中のゾーニングをしてから、間仕切りや窓の形や大きさを決め、家具を配置していきます。先生たちなので、サクサクとワークは進みますが、生徒だったら、短時間でこんなにうまくいくのだろうかという一抹の不安もよぎりました。(汗)

アンケートの中に、住宅の専門家ではない悩みや不安もあり、社会貢献の一環として、建築士としてのサポートが求められていることを強く感じました。

北海道白老東高等学校報告

札幌支部 往田 協子

平成25年12月10日火曜日、雨。北海道白老東高等学校で住教育授業が行われ、北海道建築士会から12名の建築士が担当しました。

対象クラスは2年生3クラス全112名。全員必修授業でした。

午前中C組37名の授業を実施。6名が指導を担当、午後からの授業担当の他の6名も見学、グループ指導にも参加しました。

テーマは「私らしい住まい」の設計。初めてのひとり暮らしを想定し間取りや家具の配置を考えるというもの。実際に自己責任による暮らしが近づいている高校生に関心を持って欲しいテーマです。

見学で参加した午前中のクラス。寸法感覚に悩む生徒は多かったですが、それは狙いでもあり比較的いい感触でした。生徒達は素直に住まいの知識を吸収し自由な発想でレイアウトを考えていました。

A組とB組別々の教室で行った午後の授業。グループ指導で声を掛けるタイミングに苦労しました。質問や確認を求める生徒がいる一方、黙々と質問なく作業を進める生徒もいて、建築的アドバイスのきっかけを掴むのに苦労しました。短い間でも瞬時に生徒と信頼関係を築いていく必要性を強く感じ、私の次回以降の課題になりました。

全ての人に必要な住まい。その住まいをいかに気持ち良く効率的なものにするかを早い段階から考えて欲しい。私達建築士の思いです。私自身大切にしたい思いでもあり次年度以降もいい関わり合い方をしたいと思います。

